

CONTENTS

- カラー特集 平成20年度全日本選手権大会……【2】
- 15歳の笑顔 石川佳純(ミキハウスJSC)……【8】
- インタビュー 森蘭美咲(青森山田高)……【10】
- 話題あれこれ 全日本選手権大会……【12】

- 優勝インタビュー 水谷隼、平野早矢香ほか……【14】
- ハイライト・記録 全日本選手権大会……【18】
- 日本代表選手 世界選手権横浜大会日本代表選手……【25】
- ズームアップ 全日本選手権大会……【26】
- 日本の肖像 野村和史(パソナソーシング取締役社長)……【28】
- この人のこの言葉 藤井基男(卓球愛好家)……【30】
- 夢に向かった散歩道 近藤欽司(前日本代表女子監督)……【32】
- 練習のヒント 織部幸治(ITS三鷹代表)……【34】
- 中学生の指導 多田進(親愛ムーサスクール代表)……【36】
- マンガ 花丸たつきゅう 高橋達央……【38】
- インタビュー 長谷川敦司(全日本選手権大会審判長)……【53】
- インタビュー 大岡 巖(ジュニア女子監督)……【54】
- インタビュー 藤井優子(四天王寺高)……【55】

- ピンポン東西南北……【39】
- 第5チャンネル……【40】
- 各地レポート……【42】
- ラージボール大会……【49】
- 日中交流会……【50】
- アープでラージボール……【51】

- みんなのコーナー……【52】
- 編集室……【52】
- 記事 武蔵野高校……【56】
- 記事 卓球専門店トミオカ……【58】
- ニッタク講習会……【59】
- 2009年ニッタクカタログ……【61】

Message

全日本選手権で感じたこと——。

平成14年の全日本選手権で、当時中学生だった岸川聖也選手が男子ジュニアに優勝。今でこそ、バックハンドを自由自在に振る選手は多くなっているが、当時はまだそれほどでもなく、ハットするようなバックハンドドライブを右に左に決める姿は、光り輝いていた。

間をおかず、水谷隼選手が登場した。ボールタッチの柔らかさと、きれいなプレースタイルで男子ジュニアに続き、単複も制覇、今や日本の大エースに成長した。岸川選手とは違うが、観衆を魅了する点では共通している。

今年の全日本では、丹羽孝希選手のプレーが輝いていた。岸川選手が当時見せていたハットするプレーと、水谷選手が持っているタッチの柔らかいプレーを見るたびに心が躍る思いだった。

丹羽選手が、両先輩に追いつき、追い越し、更には中国選手を破って、頂点に上り詰めることができるかは今後にゆだねるとして、横浜大会の代表に選ばれたことは大きい。

「既存のプレーではなく、感じたままのプレーを、自信を持ってやる」

これは、現役時代にワルドナー(スウェーデン)が言っていたが、彼にピッタリの言葉である。(片野)



表紙
全日本選手権大会
女子ダブルス優勝の
平野早矢香・石川佳純
(ミキハウス・ミキハウスJSC)
撮影 安部俊太郎